資料１

第４回大田区選挙事務不適正処理再発防止委員会（概要）

開催日： 令和８年１月 15 日（木）
場所： 大田区民ホールアプリコ地下１階　小展示室
出席者：委員長：小島勇人、委員：佐藤郁美、谷口尚子、堀江敏雄
事務局：大田区選挙管理委員会事務局

【１．開催趣旨と位置付け】

第４回委員会は、委員会審議において検討してきた再発防止策に係る課題及び改善案を提示するとともに、提言（案）の検討を行うため開催した。

【２．事務局による説明の要点】

（１）前回（第３回）委員会のふりかえり

事務局から、第３回委員会での議論内容について、開催趣旨、説明事項、委員意見及び今後の方向性を整理した資料に基づき説明を行った。

第３回では、保存期間内の選挙の投票録及び開票録等の資料を照合した結果、一部の選挙において記録間に相違が見られた事例が確認されたことの報告、不適正処理（投票者数の二重計上及び白票水増し）に対する具体的な再発防止策、投票者総数と投票総数に齟齬が発生した場合のフローチャートなどを示して議論を行った。

あわせて、これまでの委員会における各委員の議論を参考として、「再発防止に係る検討材料」として、具体的な再発防止策の検討を行っていることを報告した。

（２）提言（案）について

これまでの第三者委員会における意見や議論を踏まえ、提言（案）としてまとめ、説明を行うとともに、次回の委員会での最終とりまとめに向けてさらにブラッシュアップしていくことを共有した。

【３．委員からの主な意見・指摘】

（１）提言（案）全般について

複数の委員から、提言（案）は網羅的、包括的な内容となっているとの意見が出された。また、本件事案を個々の職員の過失として捉えるのではなく、選挙事務を取り巻く体制や運用の在り方を含めた構造的な課題として位置づけたことは重要との意見があった。

（２）トップや職員の意識やモチベーション喚起について

トップの意識というのは非常に重要であり、職員のモチベーションに反映される。また、個々の職員の本務のほか、選挙事務は災害対応とともにすべての職員が担う基本的な職務であり、職員一人ひとりが大田区の民主主義を担っているという公務員としての基本的な意識を高めるとともに、職員が自ら手を挙げるようなモチベーションが喚起されるような組織風土を醸成してもらいたい。

（３）齟齬発生時の対応フローの整備について

新規作成した対応フローは、齟齬が発生した場合における確認の流れが具体的に整理されており、画期的であるとの意見があった。

一方、対応フローは一つの参考例であり、これをうまく機能させていくためには、対応フローの確認手順を基本として、齟齬等の発生状況に応じて確認手順を加除するなど、フレキシビリティに運用していくことも必要ではないかとの意見があった。

（４）研修について

選挙の直前になってから研修を行う傾向が一般的にあるが、平時から若手職員に対する投票事務の研修や、ｅ－ラーニングを活用して職場でも職員が研修を受講できる環境を整えることも必要と考える。

※1 月 15 日開催の委員会で出された意見を踏まえ、提言書に反映した主な意見は以下のとおり。

(1)二重計上の経緯について補足説明及び表見出し表現の工夫
(2)齟齬が発生した場合のフローチャートへの断り書き
(3)選挙業務間の情報共有のあり方
(4)「迅速性よりも正確性を重視・優先する」視点
(5)選挙事務に係る職員のモチベーション喚起、組織風土の醸成
(6)様々な現場（職員）の声を聞く機会の設定
(7)公職選挙法における「速報業務」の位置づけ（努力目標）
(8)選挙後の選挙事務の検証及び検証を踏まえた事務改善の実施

【４．今後の方向性】

事務局では、本日の委員会での議論並びに各委員の意見を集約・整理し、提言書（案）をさらにブラッシュアップするとともに、事前にブラッシュアップした提言（案）を各委員に配付して内容を確認いただくこととした。

そのうえで、事務局は委員長と相談のうえ、最終案をとりまとめていくこととし、各委員の了解を得た。